

# 東部ひろばから

# 防災祭

## 明日の備え万全に

### 防災緑地で開催される

9月4日(日)に、防災意識の高揚と防災緑地の存在を浸透させる「防災祭」が、3年振りに開催されました。

今回は、松本市上下水道局の給水車による「応急給水体験」と消防団による「消

▶ 消火器訓練の様子



▶ 給水車による給水体験



防車への乗車・装備試着・ホース展開体験」を主な取り組みにしました。更に、飯盒炊飯や火起こし、けん玉や水鉄砲など子どもが楽しめる事業も実施しました。また、恒例のピザやかき氷の振舞など沢山の催しにより、目標の200人を超える参加者で賑わいました。

参加した保科宣紀さん(片端町)は、「天気にも恵まれ、

幅広い年齢の方が参加されて楽しいイベントでした。また、ピザの担当者は、暑い中お疲れさまでした。美味しかったです。」と話されていました。

10月15日(土)を中心に昨年と同様に3日間、住民の文化活動の活発化と交流・親睦を図るため、恒例の「文化祭」が開催されました。

内容は、「作品展示会」を主体に野菜・たまご等の激安市や子ども対象と大人対象の映画会、ワークショップ(印鑑)に古本市のバザーと盛り沢山の事業を実施しました。結果は、書道グループや個人コレクション等に加え、清水小学校から書道等の出品があり、出品者数166人で来館者数が230人を超える例年並みの賑わいのある事業とな

## 熱い想い伝わる

### 見えた活動の成果



▲ひろば講座の作品と個人の出品で賑わう

▼デイサービスの手作り作品「こいのぼり」



▲古本市のバザー

# 文化祭



▲寄せ植えと盆栽

参加した山本佑子さん(清水東)は「作品の配置がスッキリしていて一つ一つの作品が引き立っていてよかったです。」と話していました。

### 課題は「出品に陰り」

デイサービスの利用者や職員から「手作りの作品」が多く出品され関心と感動が沢山寄せられました。

課題は、文化サークルの解散やリーダー不足等で出品に陰りが出てきていることです。来年以降、どう取り組むのか検討する時期と思われれます。

▶ 楽しい書道教室より



# 勉強になりました 明日の活力をいただく

## レベルアップ講座⑤ ゲートキーパー研修

深刻な社会問題となつて  
いる自殺。全国では平成24年に  
15年ぶりに3万人を下回り、  
以降は減少傾向にあるもの  
の、依然として2万人を超え  
ている状況です。

そんな自殺について学ぶ講  
座が9月13日(火)に30人の  
参加をいただき開催されまし  
た。

参加した方々にアンケート  
を実施したところ、「講座を  
受けて改めて難しい問題だと  
感じた」、「ゲートキーパー  
という言葉初めて知りまし  
た。」「今まで他人事の様  
に思っていた。」などの感想を  
いただきました。



▲受講の様子



▶ポトリングしたての水を  
お持ち帰り

## ボランティア部の 視察研修

ボランティア部の視察研修  
が10月26日(水)に19人の参  
加をいただき開催されまし  
た。

今回は、「サントリー天然  
水北アルプス信濃の森」の工  
場見学を中心に研修をしまし  
た。この工場は、令和3年5  
月に「サントリー天然水(北  
アルプス)」の生産を開始し  
たばかりで、北アルプスの大  
自然が長い歳月をかけて育ん  
だ地下水を無菌環境でポトリ  
ングしています。

参加した山田知子さん(東  
町2)は「大自然から預かっ  
た天然水を、そのままに味  
わっていたたく工場に感心し  
ました。」と話されていました。

## マレットゴルフ大会

東部地区体育協会主催の  
「マレットゴルフ大会」が9  
月11日(日)にアルプス公園  
桜コースで38人の参加をい  
たいただき開催されました。

男子の部優勝の村上敏雄さ  
ん(清水東)と女子の部優勝  
の中田あや子さん(片端町)  
は「良い仲間にも恵まれ、楽し  
くプレー出来ました。」と話  
されていました。



▲快晴の中でプレー

## 日赤奉仕団による 炊き出し訓練

10月28日(金)に日赤奉仕  
団による炊き出し訓練を実施  
しました。

炊き出し内容は、「親子丼」  
こちらは今年  
7月に開催し  
たパッキング  
キング講座の  
復習を兼ねて  
実践しまし  
た。



▲調理した親子丼

## 「まゆ」と「藍」 それは美しい自然の素材

### 我がまち自慢 清水西町会 本郷 孝文さん



染織作家  
本郷 孝文さん

イオンモール北  
「清水バス停留所」  
の西に、「本郷織  
物工房」と記され  
た素敵なあんどん  
型看板がありま  
す。今回は工房の  
主人で、藍染や松  
本紬の製作に携わ  
ってこられた本郷  
孝文さん(78歳)  
をご紹介します。

### ●きっかけは

学校卒業後は東  
京で映画の仕事  
をしていましたが、  
25歳のときに松本  
に帰り、父親の仕  
事を継ぎました。

### ●美しいものを使った仕事とは

それはお蚕さまが作り出す  
「まゆ」と太陽のもとで育つ  
「藍」を使った織物作りです。  
品質の良いまゆは生糸にして  
反物にしますが、そうでない

### ●これからは

紬はとても丈夫な着物なの  
で1950年代頃まで普段着  
として広く着られていまし  
たが、今では着る人が少なく  
なっています。今は高価  
なものが多いので、このま  
までもいいのかと気になるこ  
ともありますが、手頃なもの  
もありますので、お洒落着と  
して着てくれる人が増えると  
嬉しいです。

見せていただいた糸の糸で  
作られた反物や着物は、しっ  
かりとした生地、優しい風合  
い、そして上品な美しさに輝  
いていました。

工房でお弟子さんを育てて  
いる若々しい本郷さん、伝統  
産業を守り続けて、と頑張っ  
ておられました。